

札幌校舎



恵庭校舎



栄短同窓会 だより

— 創刊号 —

平成4年9月5日発行

北海道栄養短期大学同窓会

札幌市中央区南3条西7丁目

学校法人

鶴岡学園本部事務局内

TEL (011) 271-4521

FAX (011) 271-3809



「五十周年を迎えて」

北海道栄養短期大学

同窓会長 青山一子

栄養学校九期

北海道栄養短期大学が、輝かしい伝統と歴史を積み重ねて、今年五十周年を迎えました事を心よりお喜び申し上げます。本校は昭和十七年に、鶴岡先生御夫妻により北海道ではじめて栄養士養成学校として設立され、道民の生活改善、並びに指導者養成等、地域社会に果たした役割は大きかったと存じます。戦前戦後を通しての風雪五十年という私立学校の経営は、決して平坦なものではなかったのではないのでしょうか。学園の基礎を築かれた鶴岡先生御夫妻を始め、学校づくりに努力をされてこられたこれ迄の理事長、各学長並びに関係各位の諸先生方の御苦労に心から感謝申し上げます。

現在の学生の皆様は、近代的校舎と、恵まれた環境のもとで勉学に励んでおられます。特に当校の社会のニーズにあつた有為な教育実践を、又施設の充実などが今日高く評価されて来ており、食物栄養学科、生活文化学科、幼児教育学科等「北海道栄養短期大学」として現在に至っております。今や卒業生一万七千余名道内外でそれぞれ各分野で御活躍されており頼もしい限りでございます。

同窓会は、記念事業の(1)として会報を発行する事になりました。会報には出来

るだけ多くの卒業生並びに母校の状況等巾広くのせていくつもりです。この会報を通して、多感な青春時代を懐古し、友情復活、交流の輪をより大きく伸ばしていただけるなら幸いです。

記念事業の(2)として同窓会に支部をつくりました。道内六支部、道外一支部です。各支部を横糸にし、先輩、後輩を縦糸にし、同窓会の組織を更に強固なものにして会の活性化をはかっていきたいと思っております。

母校も十八才人口が来年から急減期に入り、まさに冬の時代を生き抜く為のあらゆる改革をしなければならぬ時を迎えております。魅力ある特色教育のアピールが今後の大きい鍵といわれております。これからの母校の大きいなる改革に期待してやみません。

会員の皆様、同窓会を一本の樹木にとえれば、母校はそれを支える大木の根であります。皆様の力で何時迄も立派な樹に育てあげ様ではありませんか。二十一世紀にむけて、母校の益々を力強く躍進される事を念じ、同窓会の皆様方の御健康と御多幸を祈り御挨拶と致します。

会報発行にあたり

学校法人鶴岡学園

理事長 佐々木シロ

栄養学校十三期

「」の学校を大学にしたい

北海道栄養短期大学

学長 今井 陽

同窓会の会報発行、本当におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。お互に母校をなつかしみながら散在し社会に貢献している皆様が、これを機会に改めて過ぎ越し歳月をふりかえり、心を通わせることが出来るであろうと、何事にもかえがたく意義深いものと喜び一杯でございます。



さて明治二十五年生れの鶴岡トシ先生は、昭和十七年、五十歳代を迎えて、北海道女子栄養学校を創立なされ、その後昭和三十四年藤の沢女子高等学校（札幌明清高等学校）を設立、昭和三十八年には待望の北海道栄養短期大学「食物栄養科」を設立されました。正に日の出の勢いとも言えますよいか。

然し大変悲しいことは、その直後の昭和三十八年十二月初代理事長鶴岡新太郎先生が目を煩らわれて、忽然と世を去られたことでございます。

鶴岡トシ先生はそのような中であつても悲しみに耐えて、学長、理事長を兼ねられて、昭和四十一年には家政科、続いて四十三年に幼児教育科を増設されたのでございます。これが現在の三学科の始

まりでもございました。

時あたかも鶴岡学園は二十五周年を迎え、同窓会では、二十五周年の発行を決定し、編集委員の皆さんの並ならぬご努力で昭和四十四年三月発行の運びとなりましたが、今も尚昨日のこのように思い出されて誠に感懐深いものがございます。その後昭和四十五年

には更に附属幼稚園が設立されましたが、このようなひたむきな情熱と、建学の精神を旨としてたゆむことなく、うしろを振りむく暇

もない前進又前進のお姿は、言葉に言いつくせない神々しい迄のものであったと感激新たなものがございます。

本年は鶴岡トシ先生の生誕百年、そして鶴岡学園五十周年、北海道栄養短期大学三十周年の記念すべき年を迎えることになりましたが、学校を愛し、卒業生を愛した鶴岡先生の尊いご意志を忘れず、益々の充実発展を期すべきものと思料するところがございます。

末筆ながら皆様の益々のご多幸をお祈り申し上げます。会報発行のご挨拶といたします。

栄養学校での講義と実習は、太平洋戦争から復員し、母校の研究室に戻った私の初めてのアルバイトだった。もう四十年も前「衣・食・住」すべてに戦後の困窮が続いていた頃である。新しい学術情報は東京で、やっと再会された学会での耳学問しかない。私の講義も実験も今思うと顔から火が出る思いの内容である。しかし話す方も聞く方も学問に飢えていた。精一杯やると、力一杯返ってくる。教師冥利に尽きる楽しい経験をさせて頂いた2年間程だった。



校舎は今の学園本部。二階で講義、続いて何回かは一階での実験実習を了え、鶴岡新太郎先生が待ち受けて居られて、お話を吸い込まれるのである。「この学校を大学にしたい……」と熱情こめて話されるのである。当時の北海道には、北海道帝国大学、それも男子専用大学が一つしかない頃である。先生のお話は、当時既に定鉄沿線藤の沢高台に、広大な土地（現藤野校舎の処）が寄贈されること。また北大の北側、市電終点の近くに格好の土地があること。少し狭いが校舎（後の北校舎）を建てるには充分である。

こと、などを静かだが熱意をこめて話されるのである。私も「先生大学にはアカデミズムも必要でしょう」とか「事務の専任者も大事ですよ」とか随分生意気を申上げて、先生の指導者養成にかける並ならぬ意識と情熱に引込まれてしまった。

それから臥新菅胆の十数年後、昭和三十八年に短大昇格を見届けられて先生は昇天された。

それからさらに三十年近い創立五十周年を機に、本学は単科短大から総合短大へと名実共に発展することを誓っている。そしてこれ迄の本学の苦難の足跡を踏まえ、眼前に迫った二十一世紀へ向けて、激動の社会を指導するものの育成に照応する総合大学へと、一段の飛躍発展を遂げることこそ、創設者ならびに先人各位の多年にわたる御尽力に応える道であり、本学に生きていく私達の最大の責務と信ぜられるのである。





石狩支部

市田 信

栄養学校十九期

この度、石狩支部長に任命されましたが、もう一人方、八嶋恵美子さんと担当させて頂きます。よろしくお願い致します。

さて、石狩支部は四、四七二名の会員をもつ支部の中で一番の大世帯となっています。なかでも現役で活躍されている若い会員が多いのも心強い限りです。

しかし女性会員の多い同窓生は移動も多く、この度、ご挨拶状を差し上げましたところ二〇〇余通が返送されました。これは支部会員の二〇%にも相当するもの

この度、同窓会会員のネットワーク作りを計る事を目的に道内支部長のご指名を頂きまして微力ではありますがお引受けする事になりました。

道南は後志、渡島、松山と範囲も広く会員も五六二名の大所帯でもあります。挨拶状をお出し致しましたが十二名程戻ってまいりました。

後志の副支部長に小樽保健所の三浦祐子さん、松山は熊石町学校給食センターの中野千枝美さん（☎〇一三九八一一



道南支部

小野 幸子

食物栄養学科二期

で残念なことです。

そこでお願ひですが、転職、結婚、移転などがありましたら、各期代表、事務局、八嶋、市田のいづれかに連絡を頂きたくお願い致します。

さて、母校は今年で五十歳という熟年に入りますます発展の途をたどっておりその卒業生の社会進出、活躍は素晴らしいものと伺っております。更にチャレンジ精神を失うことなく、家庭でも職場でもお互いの立場を尊重し、常識とセンスを養いたいものです。そして同窓意識をもって後輩のため、母校のために、ひいては社会のためにその専門知識を活用していききたいものです。

二一五三)にお願いし、幽霊会員のない支部として何か悩みがあった時頼れる先輩も沢山いる事を知ってほしいと思います。

私自信今迄すばらしい先輩にかまわって仕事が出来ていた事を同窓会名簿で知る事が出来ました。今迄同窓会に出席出来なかった方々は誰れかに誘ってもらわなければ仲々出席出来ないものです。お互いに声をかけあってみて下さい。

栄養短大も今年度で創立五十周年と云う事で伝統あるよりよい学校にするためには、一人一人の在校生と同窓会の会員が支えていかなければならないのでは無いでしょうか。

念願の！ 支部発足



道東支部

後藤田倫子

食物栄養学科三期

この会報をご覧下さっている短大3回生卒業の皆様、お変わりなく活躍ですか。旧姓中島倫子です。早いもので卒業してから二十年以上が経過しているのです

ね。この度同窓会の支部結成に当り連絡係のお役をお引受けして改めて短大時代を思い起しています。一番の思い出はあの坂道と階段教室です。あの頃は血気盛んな頃で、寮の管理人のご夫婦とお部屋のコーキスの割り当てが

創立五十周年記念事業として、支部結成がなされ、四六二名の日胆支部長に任命されました。平成四年四月二十三日現在で、総計七、〇一四の

同窓生が居るとの事で、心強い思いがいたします。卒業後、病院、教育委員会(学校給食センター)福祉事務所(保育課)、現在、市民生活部健康管理課と、三十数年勤務いたして居ります。

やはり、一線で働いて居られる先輩を



日胆支部

菅原 美子

栄養学校十二期

少ないと交渉したり、寮費の決算書を公開せよ、制服をなくせ等と、橋本教授に交渉したり、今思い起すと本場に若かったのだなと赤面の至りです。

私は現在北見で薄弱児・者の施設で栄養士として働いています。おかげ様で私の住んでいる網走管内には同校の先輩や後輩の皆様が多数栄養士として活躍していますので大変心強く思っています。

今回皆様へのハガキを発送しながらなつかしいお名前にあの頃のお顔を思い浮かべております。

この度の支部結成を機会にもう一度交流を深めましょう！どうぞお便りや電話をお寄せ下さい。心からお待ちしております。

見るにつけ、又後輩が栄養士会に入ってくるすと、何んとなくうれしく思います。北海道では一番歴史があると云う事です。入学しましたが、鶴岡先生のお茶、お花等手ほどきを受け、卒業してからも続けて、両方共教授の免許を取得しました。

又、新太郎先生のきびしかった、調理学も大変役に立って、就職したての頃は、古参の調理師さんに、はめられました。五十周年と聞きましたら、学生時代の事が走馬灯の様に思い出されます。

現在同期生は「リラの会」と名付けて、毎年一回札幌でクラス会を開いて居りますが、その時は「同期生なので年令は関係ないのよ」と、年一回逢うのを楽しみにして居ります。



根室支部

上田 満子

栄養学校十二期

根室支部の支部長を承りましたが、学舎を去って三十数年、母校に伺うこともなく今日に至っており、このお役目が恥かしく思われます。当地域にも先輩、後輩が多数おられ、皆様それぞれのお立場で活躍されていらっしゃる様子、大変嬉しく存じます。さて、根室支部同窓生の皆様、各地区に支部が結成されました。

東京支部

駒澤 春美

栄養学校十四期

北海道地方では経験することのできない梅雨の季節で毎日がうっとうしい日々が続いております。

会員の皆様には益々御健勝のことと存じます。さて、北海道栄養短期大学同窓会支部も平成三年十一月結成以来八ヶ月を経過いたしました。東京支部につきましては、その管轄する区域と極めて広範囲にわたり、北海道及び沖縄を除く全国各都府県全域であることから、この度ようやく同窓生名簿の掌握が整ったばかりであり、東京支部長を任命するハガキによる挨拶状と共に平成四年五月下旬本部から東京支部長あて送付されましたので、管轄区域に在住する同窓生六二四名の皆様あてに送付させていただきます。

従来は年一度の同窓会が開催されておりますが、地区支部への希望がありましたら、どんなささやかな事でも結構です。皆様のお智恵を拝借して縦横の連絡をとり親睦を深めたいと思えます。この紙面をお借りしてお願いします。

会報発行にあたって、支部の様子、抱負ということでございましたが、全くの活動なしです。お恥しき次第です。今後皆様のご協力を仰ぎながら微力ですが、なにかを求めて行きたいと思えます。

母校の発展をご祈念申し上げますとともに同窓会の益々の飛躍をお祈りします。

ところで、支部運営の基礎となる支部会員の掌握が最優先業務と考え、併せて副支部長にどなたが適任者であるか今回本部から送付された名簿を見ながら人選中といったところです。

従いまして、東京支部は只今支部長運営の諸にいたばかりといったところです。今後の東京支部の活動及び運営の在り方の基本方針としては、同窓会の開催など会員の相互の親睦をはかりつつ、母校の益々の充実発展を旨とす意義ある活動に努力したいと考えております。

どうか本部をはじめ会員皆様のあたたくいご指導ご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。願ひ申し上げし上げます。



稚内支部

伊藤 静子

食物栄養学科三期

先日、同窓会会員相互の連絡をとるための責任者になって欲しいとの依頼があり、宗谷地区の方々との連絡をとるだけなら簡単な気持ちでお引受けしましたが、道北支部と広範囲な地域に驚き、また支



「想い出」

橋本 美佐子

栄養学校一期

部長と云うことで戸惑いを感じています。しかし、連絡を受けた後、友人達の顔が浮かび会いたい気持ちに駆り立てられ胸が熱くなる思いがしました。創立五十周年記念事業を成功させるためにも微力ながら協力して行きたいと思えます。また、会員一人一人の呼びかけが大切だと思います。役員、編集員になられた皆様、本当に御苦労様です。よろしくお願いいたします。

昭和十六年十二月八日の真珠湾攻撃から日米は本格的な戦争になり翌十七年は日本軍に有利な戦況を告げるニュースが続く反面、国内の非常事態は急速に進み、衣料類の購入は切符制、主要な食品は配給制になりました。学校の生徒達は授業、その他の奉仕作業が課せられ授業も充分でない状況の中で栄養学校の充実した授業を続ける事は鶴岡先生ご夫婦にとつて筆舌につくされないうご苦労とご努力の毎日であったと思えます。午前中は講義、午後は調理実習の毎日でしたから実習材料の配給品をいかに効率よく使用するか随分頭を痛めたようです。生徒数が少ないので密度の濃い授業でしたが特に実技は基本を重要視なさいました。「基礎を知らず応用はあり得ない」と基本を吹きこ

まれた私達は幸せ者と感謝しております。当時は料理に着色する事が流行でしたが先生は絶対着色をお赦しになりませんでした。食品の持味と色彩を活かす工夫を強調なさいました。「流行おくれ」と非難の声があっても信念を変えなかつた先生、ご存命であつたら「矢張り私の説は正しかったでしょう」と笑われるお姿が想像されます。放課後、授業をはなれての両先生から伺ったお話の数々には感銘深く時の経つのも気がつかない位でした。社会人となり人生経験を重ね五十年過ぎた今でも先生の教訓が身にしみる事多く「教育とは何か」を行動で示して下さった先生、今更のように先生の偉大さをかみしめております。

人

“今後とも”



陶芸家 中村 照子

出たのに、陶芸の道に進んだのですか、という云い方で聞かれると、私は自然と息を深く吸って、お腹を押さえる気分になりまして、えーとえーとですね、自然にそうなっただけです、と答える。すると相手は困った検察官のような顔で（まだ私は検察官に尋問された事はないが）は—そうですかと片付かない顔になる。だって栄養学校を出たのに陶芸をやるというのは一見不思議ですけど、この一見という事こそ、様々なことが一杯詰まっている「一見」という

ある会合の席で、「あなたはどうして陶芸をやる様になったのですか」と新聞社の幹部らしい人から聞かれ、何時ものように、来たな、困ったなと思って仕方なく、氣付けば—という事です、と答えた。困るんですねえ、この「どうして—」は、とくにインタビューという場合は、来るものが来た、と落ちていて、その大方の場合は、何故あなたは栄養学校を

「あなたはどうして陶芸をやる様になったのですか」と新聞社の幹部らしい人から聞かれ、何時ものように、来たな、困ったな、と思って仕方なく、氣付けば—という事です、と答えた。困るんですねえ、この「どうして—」は、とくにインタビューという場合は、来るものが来た、と落ちていて、その大方の場合は、何故あなたは栄養学校を

「藤窓」中村照子さんは栄養学校十二期卒業生で、北海道における女性陶芸家の第一人者として活躍されております。(斉藤)

重大事です。正確に云ってみれば、誰れだって現在の自分を説明するにはこの一見より他かに説明のしようがない……。

栄養学校を卒業したからには栄養士の道は、極めて自然で、世間に当り障りはないが、しかし誰れだって最初デパートに行つて、すぐ帰る心算りが、友達に会い、その友の個展を見ているうちに、花が欲しいなり花屋に行く道と古道具屋で素的な壺を見付け、主人と話しているうちに矢張り家にあるガラスびんの方が良いと思ひ、買わずに帰る事にしたが、急にお金が残つたよくな氣になり、行きつけの小さな喫茶店に寄ると旧知の友人と出會つて、夕食を御馳走になる……なんていう事だつてあるんだから。たつた一日の中において。

私は何故陶芸家になつたのか、同窓の人たちだから—と申しあげますが、私は子供の時からガスや水道工事の仕事を見るのが何より好きだつた。親に叱られるまで長い時間しゃがんで見ていた。そして想像もしなかつた物の形が出来あがる、男だつたらガス屋さんになれるのにと本氣に思つた。何か美味しいものを作る「栄養学校、美しいものを創りたい—華道」と回り道してあゝ、矢張り氣付けば毎日土をコネる女、になつていたというのが正直なところ、一言で申す「一見」すなわち今の私でございます。一見、どうぞよろしく今後とも。

現在の学校

給食に思う



中根 敦子

食物栄養学科一期

卒業と同時に私の学校勤務栄養士としての希望が適えられました。学校給食も、国民の生活水準の向上に伴い変化をして来ました。食料難の時代の学校給食。現在は物資の豊富な中での学校給食。「もう学校給食はいらない」などと言う意見が出されたり、又お弁当にするなどと言うと、学校給食の持つ教育的な目的やねらいなどを度外視し、猛反対が起きるでしょう。日常の生活も西洋化が進み、食に關しては、いつどこにでも、日本と同じ様な食べ物や店頭並べられ、健康志向を合言葉の様に食料品が買われ、売られています。また地域の行事食・郷土に根づいた郷土の食事は影をひそめた感じさえあります。

この様な社会の中に給食が置かれてい

生活改良普及員として

感じたこと



小林 聡美

家政学科十三期

私は、五十六年から、十年間生活改良普及員として仕事をしてきました。私が、生活改良普及員という職業を知つたのは、大学に入學して二年目に入った頃でした。内容も知らずに資格がとれるならと思ひ受験しました。幸か不幸か合格。

そんな訳で就職してからも、戸惑ひが多くだだ時が過ぎたように、今になって思ひます。仕事の内容も知らずに就職したので、前任者と農村特有のギャップに押しつぶされそうになつた事もしばしばでした。

農村には、一般生活とは違つた習慣、風習みたいな、しがらみが多くあるように思ひます。

その中には、大家族からくる人間関係や地域環境、農業経営に対する婦人の認識の低さ等が上げられます。

これからの農村社会は、生産と生活を調和し快適な農村生活を実現するうえで、婦人を中心とした指導が要求されており、生活改良普及員に対して期待されていると、思ひます。



創刊号に当たってひとこと

鎌田 妙子

幼児教育学科一期

母校の創立五十周年、誠にめでとうございます。

私は幼児教育学科の第一期生でありまして、ちょうど二十二年前・昭和四十五年の卒業にあたりますので、およそ創立真ん中期あたりに在籍させていただいたこととなります。

ひと口に五十年といいますが、それはそれは長きに渡る試行錯誤の歴史でございましたことでしょう。生意気ながら、私も商売の真似ごとをして七年、何かと

悩み、苦しみの連続でございました。もちろん今もそれは継続している訳ですが、新しいことにチャレンジする夢や希望も

あります。それは肉体的にも精神的にも金銭的にもかなりのリスクを背負うものです。ちょうど私がお世話になった頃、幼児教育学科なる新しい選考科ができたばかりでさぞや大変だったことでしょう。

元気にあの坂道を登っていた乙女も現在はゴム入りのスカートをしっかりと愛用しています。



男女共学の中で感じたこと

樋本 浩司

食物栄養学科二十六期

普通の共学とは違って圧倒的に女性が多かったですね。もともと高校や予備校時代、理数系でしたので完璧に男の世界でした。そこから全く逆のパターンの世界へ飛び込んでいきましたので、馴れるまでは結構不安でした。

逆の世界では様々なことが起こりました。例えばトイレに入ったとき。中で化粧をなおしていたり、あわてました。女性用トイレに入ったと思ひ込みましたので……。

更衣室も狭くロッカーで仕切られたのみ。カーテンやドアも無くの着替えでした。何事も最初のこととあって諸先生方にはご迷惑をおかけしたり、男性ということもあって甘くして頂いた記憶も多々あります。

それでも、また学生にもどり栄養短大にて勉強したいとつくづく感じております。最後に、4年制になるときは是非、通信制定時制が附属されていることを切望いたします。

同窓会事務局だより

本年度は役員改選年度です

〈現役員〉

会長	青山 一子	会計監査	市田 信
副会長	中根 敦子	会計監査	吉田 信
副会長	和田 迪子	常任監事	橋本美佐子
副会長	浅見 晴江	常任監事	鈴木 栄子
会計	高橋 悦子	常任監事	三沢 菱子
会計	八嶋恵美子	常任監事	出島 秀子
		常任監事	佐野喜和子
		常任監事	小林志津子
		常任監事	飛渡 千織
		常任監事	齊藤百合子
		常任監事	西家 史恵
		常任監事	西野 英子
		常任監事	松本 寛美
		常任監事	小林志津子

平成四年度事業計画

- 一、同窓会名簿の整理
引き続き会員の皆様のご希望に答えていけるよう整理をしたいと思ひます。
- 二、平成三年度卒業生への記念品贈呈
●支部結成について
●鶴岡先生をしのぶ会
いきたい
- 三、創立五十周年記念事業について
●会報の発行(新事業として考えていきたい)

度 予 算

支出の部

(単位：円)

項 目	金 額	備 考
基本積立	2,000,000	定期預金
平成3年度及 同窓会総会費	750,000	150名×5,000円+サービス料(先生方含む)
卒業記念品費	505,000	505名×1,000円=505,000円
印刷費	700,000	幹事会及び総会の案内印刷会報発行予定
通信費	1,000,000	ハガキ・電話代・切手代会報発行予定
事務消耗品費	50,000	ボールペン他
会議費	500,000	幹事会・常任幹事会
交通費	200,000	幹事会常任幹事会交通費
アルバイト料	400,000	名簿等の整理 会報発行等
名簿整理費	100,000	名簿等の整理
研修費	500,000	講演料
予備費	1,086,332	
計	7,791,332	

校名変更か？

私達が、馴れ親しんだ北海道栄養短期大学の校名が、この五十周年を期して、変わるのでしょうか。

昨今私学経営を語る時には、必ず出て来るのが十八才人口の激減についてであります。

全体の進学率が伸びたとはいえ、全体数が激減しているのので、入学者の定員割ということが起きてくるのです。しかもそれは、毎年減少の途にあるというから大変な事です。

特に単科制では間口が狭く、しかも、現在社会のニーズに合わせるためにも、複数科制の総合短期大学にして、より一層の内容充実を計り、学生増に繋げる意味においても、校名変更は重要な

創立五十周年を期して変更されそうです

問題なのであります。

確かに鶴岡先生が設立された「北海道栄養短期大学」という校名がなくなるといふことは、創設者の意志がなくなると錯覚をおぼえる人々もいると思えますが決して、そういう事ではないでしょう。

全国的にみても、校名変更は特別めずらしい事でもなし、それよりも同窓生としては、いかに母校が発展出来るのか現教職員に期待し、同窓生として協力していかねばならないのではないのでしょうか。

文部省からの良い報告をまちたいものです。(斉藤)

栄短の現状について

生活文化学科長教授

浅川修 二

一、教育状況

— 社会のニーズを先取りした人材養成を目指して —

短期大学の教育目的は、「深く専門の学芸を教授研究し、職業又は実的生活中に必要な能力を育成することをおもな目的とする」(学校教育法第六十九条の二)ことである。勿論、教育全体としては、人間形成が最大の目的であるから、教育を基礎として、専門と職業に関する知識・

技能を教育する使命を持っているのが短期大学であるといえる。

特に、職業に関する教育を行うためには、社会の動向を把握し、その要請に応えられる人材を育成しなければならぬ。

本学の場合、この点について常に調査研究し、社会ニーズを先取りし、それを教育課程に組み込み、社会で活躍できる人材の養成に努力している。

次は短大の概要を示す図である。平成五年からは生活文化学科では国際化、情報化、多様化する社会への対応を考えてコース増設・変更を行っている。

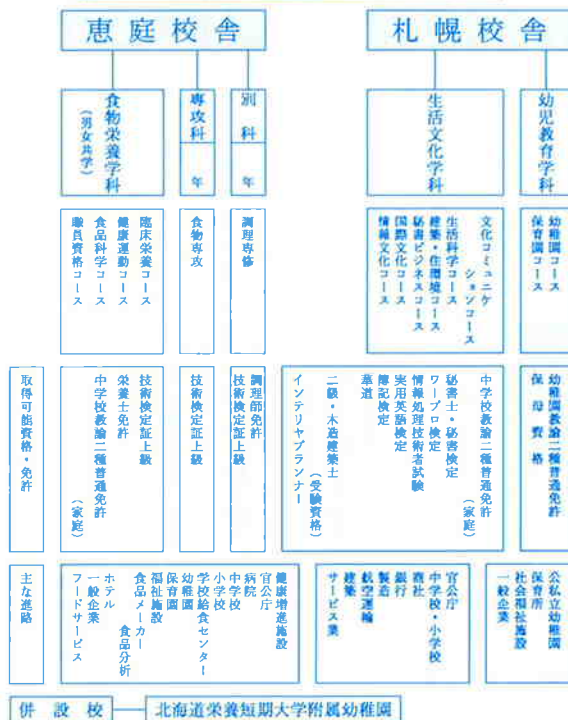
今後の重要な教育視点としては、大学

平成4年

自 平成3年11月1日
至 平成4年10月末日

平成5年度

北海道栄養短期大学



基本金積立額	12,500,000円
利息	2,731,406円
計	15,231,406円

創立50周年記念事業積立	現在額	80,000円
バザー収益	計	

収入の部 (単位：円)

項目	金額	備考
前年度繰越金	1,326,332	
会費	5,775,000	3年度分 55名×10,000円=550,000円 7名×5,000円=35,000円 4年度分 519名×10,000円=5,190,000円
利息収益	40,000	普通預金利息
平成3年度及同窓会総費	650,000	130名×5,000円=650,000円
計	7,791,332	

教育が社会人の生涯教育にいかに関与できるかということである。

例えば、全学的行事としての「公開講座」や、食物栄養学科では、恵庭市と協力して市民に対する栄養指導・相談活動を行っている。幼児教育学科では、附属幼稚園と共に「子育て相談研究センター」を開設し、地域の母親の育児相談をしている。生活文化学科では、新設のコンピュータ施設を活用し、地域住民へ情報教育の開放を企画している。

社会人の生涯教育に対する方法については、社会人である卒業生(同窓生)の意見を聞く機会を持つべきであると考え、いづれにしても、卒業生の娘さん、妹さんは勿論のこと、関係者を「母校」へぜひ入学させたいと思うような学校にしたいし、必ず出来ると信じているものである。

二、就職状況

学校評価のための方法として、入口論と出口論がある。入学する学生の成績の良いこと、就職実績の良いことで学校の評価が決まるというのである。この論の是非についてはいろいろ議論の分かれるところであるが、部分的には正しい面がある。

本学の最近五年間の入学者の成績は非常に上って来ている。また、就職実績も大変良い。これは、日本の経済が好況であったことと共に卒業生の実績、教職員、学生自身の努力が実を結んだためである。私自身の体験で言えば、昭和六十三年

平成3年度卒業生就職状況

就職内訳

平成4年5月1日現在

学 科	卒業者数	就職希望者数	決定者数	就職率
食物栄養学科	235	217	213	98.2%
生活文化学科	134	128	124	98.0%
幼児教育学科	108	106	106	100 %
合 計	477	451	443	98.2%

頃は本学の全体的レベル、特に、生活文化学科(旧家政学科)は必ずしも高くはなかった。一流企業へ就職する学生は少なかつた。しかし、現在では、実力的に他のどの短大生と競争しても負けない程度までレベルが上って来ているのが実態である。しかし、この事実について意外に社会(卒業生さえも)での認識が足りない。実態を社会に知って貰うための広報戦略が必要である。

次は、本年三月の卒業生の就職状況である。

※その他・プログラマー、オペレーター、SE、キーバンチャー、インストラクター等

職種別就職状況

食物栄養学科

職 種	人数
専 門 職	
栄養士	95
検査員	10
教 員	12
公 務 員	4
一般事務	62
営業・販売	30
計	213

生活文化学科

職 種	人数
一般事務	89
営 業	21
販 売	8
公 務 員	1
※ その他	5
計	124

幼児教育学科

職 種	人数
専 門 職	
幼稚園教諭	46
保 母	43
指導員	1
一般事務	16
計	106

三、所感

上智大学は大変発展した大学の一つである。その主な理由として、同窓会との結束の固いことがあげられている。そのため多くの大学が同窓会活動を重要な学校経営戦略として取り入れている。

本学同窓会の支部が誕生したことは、同窓会自体は勿論、短大にとってもいろいろな意味で大変喜ばしいことである。いかに同窓会と短大とのタイアップを図っていくか。先づ、お互にアイデアを出し合う場を持たなければならぬ。「改革は創業より難しい」と言われて

いるが、躊躇しては発展は望めない。

注 平成五年度の入学試験日程

- 一、推薦入試 平成四年十二月四日
- 二、I期入試 平成五年二月二日
- 三、II期入試 平成五年三月五日

鶴岡学園五十周年記念式典

●平成四年九月十八日(金)
於 札幌ガーデンパレス
鶴岡学園五十周年記念

●音楽フェスティバル92
平成四年十一月七日(土)
午後一時三十分～三時
於 かでる二・七ホール

編集後記

●我母校も五十周年という記念すべき年にあたり、同窓会としても何か事業をということで、同窓会だよりを作る事になった次第です。

●私達編集委員にしてみれば、そのノウハウも知らず、取り組んだ結果、この様な創刊号がようやく完成しました。

●今後も同窓会だよりは続行されることになりそうですが、会員相互の親睦を図り母校の発展のためにも、皆様の御意見、御感想をお待ちしています。(斉藤)

発行所 北海道栄養短期大学同窓会

会長 青山 一子
編集委員長 斉藤 道子